

トーヨーカネツグループ

# Investors Guide 2018

- トーヨーカネツの歩み ▶ 3
- 事業概要 ▶ 4
- 中期経営計画 ▶ 5
- 事業戦略への取り組みの一例 ▶ 6
- ビジネスフィールド ▶ 10
- 物流システム事業 ▶ 12
- 機械・プラント事業 ▶ 18
- 海外納入実績 ▶ 24
- 会社情報 ▶ 26

**トヨカネツ** 株式会社

証券コード: 6369

## ごあいさつ

「インベスターズガイド2018」をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社グループは「わが社は 常にすすんで よりよきものを造り 社会のために 奉仕する」を社是として、1941年創立以来培ってきた技術をもとに、機械・プラント事業、物流システム事業を主力事業として、様々な産業分野において最適な製品、システム、サービスを提供することでお客様の満足と信頼を得ると共に、社会・環境への貢献を果たしてまいりました。

この「インベスターズガイド」では、こうした当社グループが社会で貢献する舞台、ご提供している製品・サービス、事業の取り組み等をご紹介差し上げ、ステークホルダーの皆様が当社グループの事業内容に対してご理解を深めていただければ幸いです。毎年発刊をしております。

今年度は2016年度に策定したグループ中期経営計画（2016-2018年度）の最終年度となります。この計画における連結業績目標の達成に留まらず、その先の2020年に向けたビジョンとして掲げる「先進的なエネルギー・物流技術を軸に未来の社会インフラ高度化に貢献」することを実現し、情熱と覚悟をもって更なる飛躍の足掛かりとなる年にして参ります。

今後とも“Challenge & Change”の精神で、グループの持続的発展と企業価値向上のため、更なる挑戦を続けてまいりますので、皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長  
柳川 徹

## 事業概要

# トヨヨーカネツの歩み

私たちは、東洋火熱工業株式会社として1941年に創業、工業窯炉の製造・販売から機械・プラント事業をスタートさせました。その後、戦後復興期の1950年にはリベット式タンクに代わる全溶接タンクを日本で初めて製造・販売。さらに、高度経済成長期にいち早く海外進出を果たし、中東やアジアで数多くのタンクを製造いたしました。クリーンエネルギーとして注目されているLNG（液化天然ガス）貯蔵にも取り組み、1969年には、超低温貯蔵タンクを製造。これにより、常温から超低温貯蔵のタンクまでを製造できるメーカーへと成長を遂げています。また、機械を用いた自動溶接にも早くから取り組み、インドネシア・パタム島に生産拠点を持つなど、高品質ながらコストを抑えたタンク製造を実現しています。現在までに国内外で製造したタンクは5,700基、海外での製造数は業界No.1です。LNGタンクのシェアでも国内No.2です。

一方、1955年に製造・販売をスタートした物流システム事業は、荷物・ユーザー・運用者に優しい製品が好評を博し、事業を急拡大させました。1971年に福岡空港に提供した手荷物搬送システムは、現在、国内65カ所、世界17カ国の空港に納入され、国内シェアは9割を超えます。1981年に日本で初めて開発・販売したデジタルピッキングシステムは、生協業界を支え続け、現在もシェア7割、No.1のポジションを維持しています。お客様のビジネスを徹底して学び、理解し、「製品ではなく機能を売る」をスタンスに、お客様の事業のビジョンから各物流拠点での運用ノウハウまでを把握しながら、変化の速いビジネス環境への対応と一緒に模索、数々のイノベーションを実現しています。

創業以来培ってきたチャレンジ精神によって、これからも私たちは進化し続けます。

機械・プラント事業のコアとなる溶接技術は、自動溶接から遠隔溶接へと進化。現場から離れた事務所で質の高い工事を24時間進める——そんな未来を実現させようとしています。さらに、本格的な水素社会の到来を先取りし、大型水素貯蔵タンクの開発に目処をつけています。

物流システム事業では、IoT技術・AIを活用した物流システムの予知保全サービス、ロボットを活用した物流現場の省人化、AR（拡張現実）を活用したミスのない効率的なピッキングの仕組みづくりなどに取り組んでいます。

当社のミッションは不変です。たとえ社会が変化しても。

当社は、これからもインフラを支え続け、それによって社会に貢献していきます。



■事業概要

トーヨーカネツ(株) (代表取締役社長 柳川徹)は、1941年5月に東洋火熱工業(株)として創業、工業窯炉の製造・販売を開始いたしました。現在は、物流システム事業、及び機械・プラント事業を中心に事業展開をしております。

物流システム事業

売上高 259.3億円 営業利益 19.3億円

仕分け、ピッキング及び搬送システムを中心とした物流システムの開発・設計・施工や、これら各種システムのメンテナンス業務等



機械・プラント事業

売上高 100.3億円 営業利益 △1.7億円

LNG、LPG、原油、その他気体・液体用の貯蔵タンク的设计・製作・施工や、これら各種タンクのメンテナンス業務等



その他事業

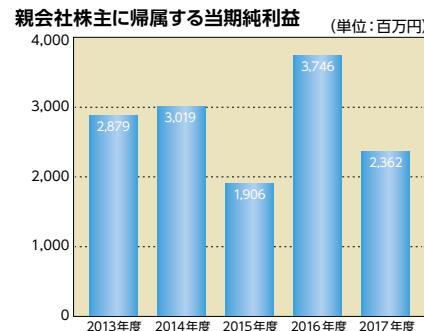
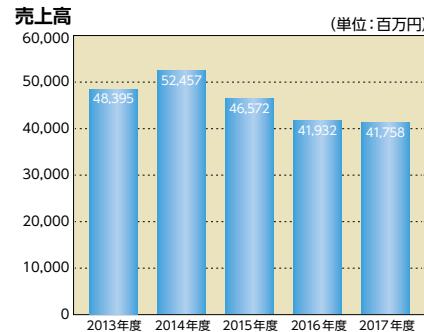
売上高 64.7億円 営業利益 9.1億円

福祉施設や賃貸住宅などの建築請負、バランスやウインチなど産業用設備機器の製造・販売、不動産の賃貸・管理等



※売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

■連結財務ハイライト



■中期経営計画

当社グループは、グループ中期経営計画(2016-2018年度)を策定いたしました。本計画では従来の事業領域やビジネスプロセスにとらわれない"Challenge & Change"のスローガンの下、次の4つの経営方針に取り組むこととしております。

- 1 事業領域の拡大
- 2 更なる高収益体質への転換と競争力の強化
- 3 既存事業の強みを生かした新規事業の立ち上げ
- 4 適切なリスクテイクを可能とするコーポレート・ガバナンス体制の構築

■事業戦略

物流システム事業

事業領域の拡大

- ・優位性の高いシステムの拡販
- ・冷凍・冷蔵等分野への強化
- ・アライアンスによる事業領域の拡大

更なる高収益体質への転換と競争力の強化

- ・営業～メンテナンスまでのバリューチェーン強化
- ・メンテナンス事業の強化
- ・次期戦略製品の開発

機械・プラント事業

事業領域の拡大

- ・東南アジア・中東案件の取り込み
- ・設備企業とのアライアンス戦略
- ・小型タンク市場への参入

更なる高収益体質への転換と競争力の強化

- ・業務生産性の向上
- ・プロジェクト工程短縮と標準化
- ・メンテナンス事業の拡大

新規事業

既存事業の強みを生かした新規事業の立ち上げ

- ・次世代エネルギーである水素タンクの開発研究に着手
- ・IoT やロボット他による次世代物流システムの構築に着手
- ・エネルギー産業との親和性、豊富な販売チャネルを活用し、電力関連ビジネスへの参入を検討

■コーポレート戦略

- ・ガバナンス・ガイドラインの実践と取締役会の機能強化
- ・タイムリーな情報発信と企業イメージ・認知度の向上
- ・決算説明会開催等、株主との対話の強化
- ・ESG(環境・社会・企業統治)への取り組み強化
- ・中長期経営課題と事業環境を踏まえたグループ最適編成の検討
- ・資本効率と経営安定性の両立を目指した資金調達の最適化
- ・"Challenge & Change"の企業風土の醸成
- ・次世代経営人材の育成・強化
- ・女性の職場における活躍の推進

■事業戦略への取り組みの一例

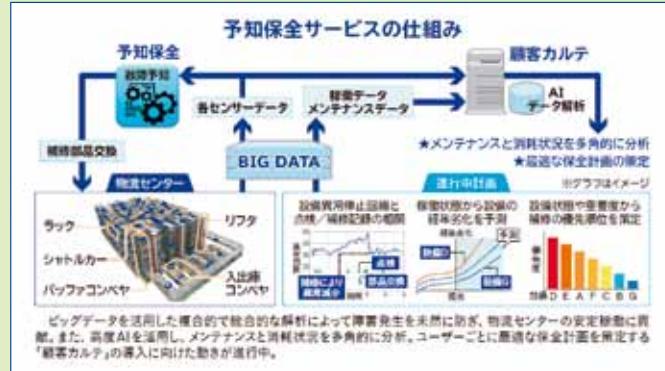
■物流システム事業

●予知保全サービスが24時間の安定稼働を実現

中期経営計画（2016-2018年度）において、「次期戦略製品の開発」に取り組んでおります。当社は、産業技術総合研究所、東京理科大学、横河ソリューションサービス株式会社など、わが国トップレベルの組織と産学連携体制を構築し、IoT（モノのインターネット）技術を活用したサービスを開発いたしました。

当社が開発したIoTサービスの1つである「予知保全サービス」は、IoT技術、人工知能（AI）を活用し、お客様の物流システムを24時間リモート監視する中で不具合の兆候である微細な振動、音、電流、温度の変化から障害の発生を予知し、最適なタイミングで保全を行います。物流システムの安定稼働を実現するサービスです。2018年4月から当社のお客様の物流センターで実環境検証を実施、10月からサービスを提供していく予定です。

IoTサービスの開発に取り組むことで、お客さまに対して今まで以上に付加価値の高い物流システムを提供し、更なる高収益体質への転換と競争力の強化を図ってまいります。



■機械・プラント事業

●中小規模LNGサテライト基地向けタンク

これまで大型LNGタンク建造で世界をリードしてきた当社の実績と技術・ノウハウを活かして、中小規模LNGサテライト基地向けに、容量が1万m<sup>3</sup>以下の小型LNGタンクの製品ラインナップを強化いたしました。

当社はインドネシア・パタム島にタンク材料の加工拠点（パタム工場）を有しており、このパタム工場での小型LNGタンクの材料加工から組み立てまでを行い、モジュール化して各地のLNGサテライト基地に海上輸送します。これにより建設現場での現地工事量を大幅に低減し、設備納入までのリードタイムを短縮します。工場でのモジュール化、輸送方法には、専門メーカーとして培ってきた設計技術、施工技術を結集し、自社工場での製造・組立を行うことで、より安全で高品質なタンクの提供が実現いたします。

経済発展に伴うエネルギー需要の拡大、環境問題への配慮からパイプライン敷設の困難な離島や遠隔地域におけるLNG需要は高まりを見せております。この小型LNGタンクを提供することで、こうした地域において多様化するエネルギーインフラを支えてまいります。



■事業戦略への取り組みの一例

■新規事業

●研究開発型企業を子会社化

アスベスト調査、シックハウス調査、騒音・振動測定などを行うと共に、IoTを用いた調査・分析技術を有する環境リサーチ株式会社（東京都八王子市）の全株式を取得し、子会社化いたしました。

環境問題へ積極的に取り組む当社にとり、同社の事業は、健康被害を防止し、人々の健康と安全を守る社会的意義が高いものと考えております。また、当社グループが目指す新たな事業領域における研究開発の一翼を当社が担い、当社グループの既存事業、及び昨年設立したCVC（コーポレート・ベンチャーキャピタル）ファンドが出資するベンチャー企業とのシナジーを發揮し、オープンイノベーションを実現してまいります。



●バイオマス発電事業への出資

当社はイーレックス株式会社（東京都中央区）が展開を進める沖縄県におけるバイオマス発電事業に出資をいたしました。

再生可能エネルギーの導入拡大は温室効果ガスの削減だけでなく、エネルギー供給の多様化に繋がるなど、その重要性、社会的関心は年々高まりを見せております。

当社はエネルギー産業との親和性が高く、バイオマス発電事業へ参画し、エネルギーインフラを支えることで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。



●コーポレート・ベンチャーキャピタルを設立

当社グループの将来の成長を牽引する新規事業立ち上げを目指し、コーポレート・ベンチャーキャピタル「トーヨーカネツ・コーポレートベンチャー投資事業組合」を設立いたしました。ファンド総額は5億円、2017年10月1日より運用を開始しております。

当社グループの既存事業との距離感に関わらず、革新的な技術・アイデアを有し、B to B領域を主とする有望な国内外のベンチャー企業へ出資を行うと共に、協働することでオープンイノベーションを実現してまいります。

■コーポレート戦略

●トーヨーカネツソリューションズを吸収合併します

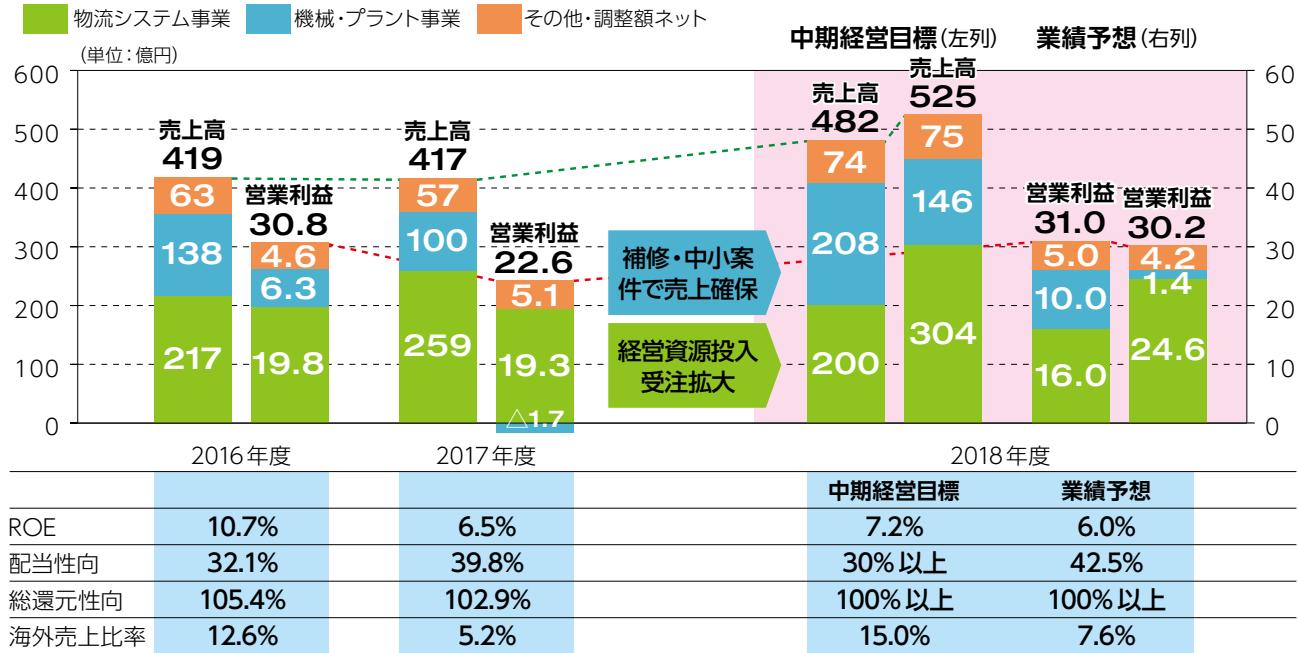
当社は2018年5月11日開催の取締役会において、2019年4月1日を効力発生日として、完全子会社であり物流システム事業を担うトーヨーカネツソリューションズ株式会社を、親会社であり機械・プラント事業を担うトーヨーカネツ株式会社に吸収合併することを決議いたしました。

この合併はグループの主要事業である機械・プラント事業、及び物流システム事業における知的財産の共有、人的リソースの適正配置、及び共有資産の有効活用などを目的としたものです。

今後とも両事業が手を取り合い、グループ全体の企業価値の更なる向上を目指してまいります。



■連結売上高・営業利益のセグメント別目標



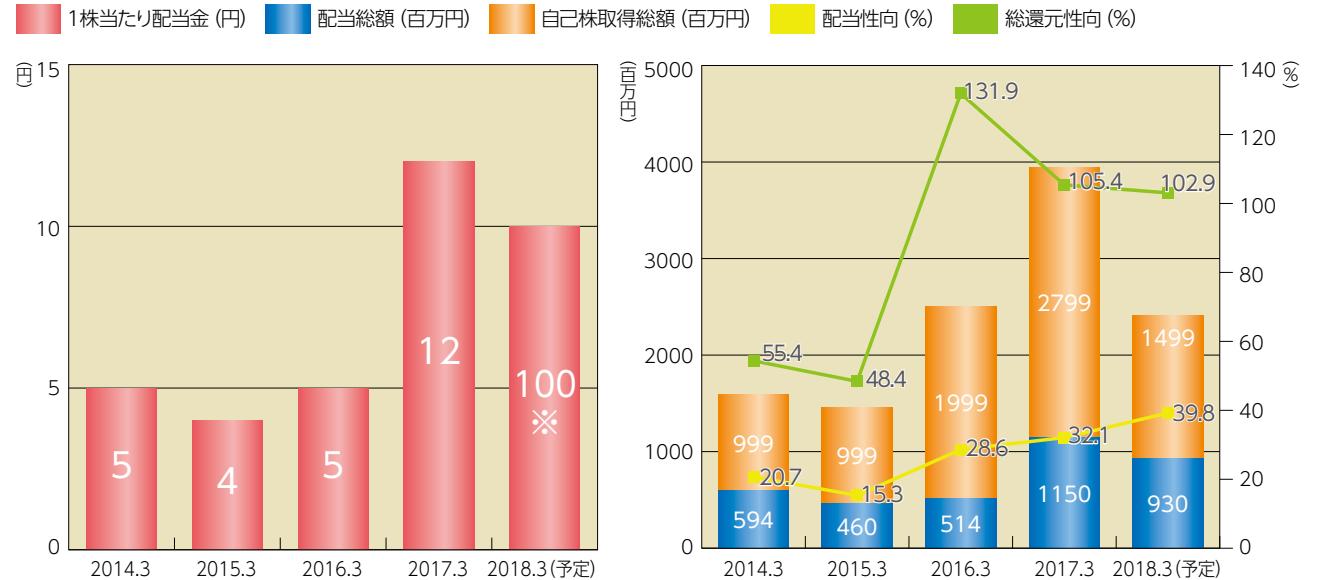
■資本政策の基本方針及び株主還元方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付けており、財務の健全性と株主の皆様への利益還元とのバランスを最適化することを基本とした株主還元方針を策定しておりましたが、2016年11月11日に、当面の業績見通しや財務状況を踏まえ、企業価値向上に向けた積極投資、利益の配分及び資本効率を総合的に勘案した資本政策の基本方針を策定いたしました。これに伴い、株主の皆様への利益還元を更に充実させる観点から、株主還元方針についても、以下の通り改定しております。

① 連結配当性向	30%以上と設定いたします。 (但し、1株当たり年間10円配当(2017年10月1日実施の株式併合に伴い、2018年3月期より1株当たり年間100円配当)を下限とする。)
② 連結総還元性向	100%以上と設定し、①のほか、自己株式取得を機動的に実施いたします。 (但し、大規模な資金需要が発生した場合にはこの限りではない。)

本株主還元方針の適用期間は、グループ中期経営計画の計画期間(2017年3月期～2019年3月期)の3期とし、当該期間の終了時点で見直すことといたしますが、これら資本政策の基本方針及び株主還元方針に基づき、資本効率の向上を図り、2020年度には自己資本利益率(ROE)8%以上の達成を目指してまいります。

■配当・自己株取得の推移



※2017年10月1日を効力発生日として株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施いたしました。  
2018年3月期の1株当たり配当金につきましては、株式併合を考慮した金額を記載しております(株式併合を考慮しない場合は10円)。

■株価の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
最高(円)	404	278	272	358	422 (4,775)
最低(円)	227	226	186	185	258 (2,985)
期末終値(円)	263	228	246	295	(3,065)

※2017年10月1日を効力発生日として株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施いたしました。  
2017年度の株価につきましては、株式併合前及び株式併合後の株価を記載し、( )内に当該株式併合後の最高・最低株価並びに期末終値の株価を記載しております。

# 当社グループの製品が活躍する舞台

**物流システム**

- 卸・小売・3PL
- ネット通販
- 郵便
- 空港
- 生協

**機械・プラント**

- LNG 液化基地
- 原油輸出基地
- 石油備蓄基地
- 発電所
- ガス会社
- LNG 受入基地
- 製油所

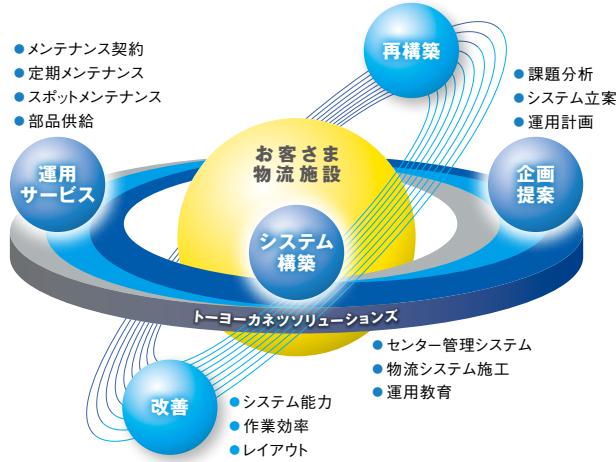
☞ 詳細は12頁~17頁を参照

☞ 詳細は18頁~23頁を参照

**その他**

- 産業用機器
- 環境調査・分析
- 建築

# 物流システム事業のビジネスプロセス



## ロジスティクスにチカラを

お客様の物流環境の変化に対応し、  
私たちは最適な物流システムの構築と  
維持・改善を提供します。

### 総合エンジニアリングサービス

トヨカネソリューションズは、物流センター構築のプロジェクトを3つのフェーズに分け、お客様の理解を深めお客様の視点に立ってプロジェクトを推進いたします。

#### ① コンサルティング

お客様の課題と解決策を徹底的に検討



- フィジビリティスタディ
- コンセプトの提案
- マスタープラン作成

#### ② エンジニアリング

最新の技術とノウハウを結集した物流センターを構築



- 設計 (運用システム・レイアウト)
- 製造
- 施工

#### ③ センター立ち上げ

スムーズなセンター立ち上げをサポート



- 試運転調整
- 操作教育
- 移行計画策定

### オペレーションサポートサービス

トヨカネソリューションズは、センターの立ち上げ後もお客様の運用を3つのフェーズに渡ってシームレスに支援してまいります。

#### ④ センター運用サポート

能力を最大限に活かす運用確立



- 運用指導教育
- 設備習熟教育
- 日常点検/障害対処教育

#### ⑤ メンテナンス

低コストで長期安定稼働を実現



- 365日24時間サービス体制
- 定期メンテナンス
- スポットメンテナンス

#### ⑥ 改善提案

物流環境の変化に対応した最適な提案



- センター内の生産性改善
- 物流サービスレベルの向上
- リニューアルコンサルティング

### 製品一覧



#### SPD (スーパーピックディレクター)

高頻度アイテムのピッキング生産性の向上。各ゾーンでのピッキング頻度のばらつきが少なく、高頻度で比較的少ないアイテムを限定対象にした集品形態に適応しています。



#### ニューボジソータ

不定形品・長尺物など多様な荷姿に対応しながら、超高速で大量仕分けを可能にします。さらに磁力分岐により低騒音も実現しています。



#### マルチシャトル

高い入出力能力と省スペースを実現する新しいコンセプトのケース自動保管システム。ピッキング、仕分け、補充、保管の4大機能を活かし、お客様の目的に応じた仕組みを構築可能です。



#### ボイスシステム

「作業指示を(音声)で聞き」「作業結果を(声)で返す」ことができるシステムです。コンピュータから出力されるテキスト・データを音声データに変換し、登録された音声データをテキスト・データとしてコンピュータに入力します。



#### カートピッキング

中頻度～低頻度の多品種アイテムに対するペーパーレスでピッキングミスの無いローコストなピッキングシステムです。



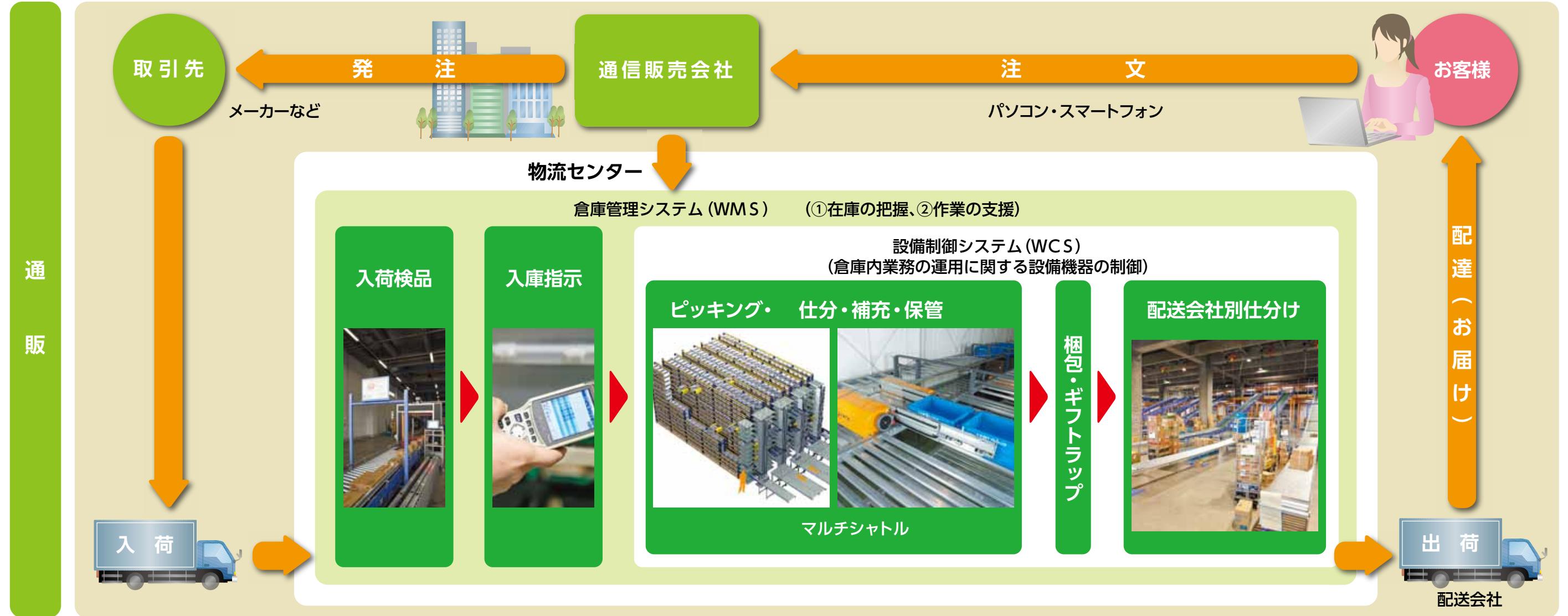
#### RFIDトンネルゲート

パッシブRFIDタグ(EPC C1G2タグ)が個品に貼付されているアパレルや医療器材のケース単位の個品一括読取を実現した、高精度・高能力のRFIDトンネルゲートシステムです。

# ネット通販時代のニーズに応える高速出荷を実現

拡大を続けるインターネット通販市場において、更なる物流機能の高度化・合理化に応えるため、最先端技術の導入・開などで、ネット通販ご利用者様の元に素早く商品をお届けできるためのソリューションを提供しております。

発を通じて、当日配送を可能とする正確・迅速な出荷と、かつ省スペースを実現する保管システム(マルチシャトル)



# 手荷物、旅客、運用者に優しい空港手荷物搬送システム

お客さまの手荷物を確実に搭乗便に運ぶ空港手荷物搬送システムを1971年より提供しております。365日休みなく稼動する国内では羽田空港、成田国際空港、中部国際空港などをはじめ65空港に納入、90%以上のシェアを確保しております。

# で空の玄関を支える

る空港においては、遅延、誤送が許されません。その厳しい要求に応える高度な機能と高い品質で、現在までに世界17カ国、



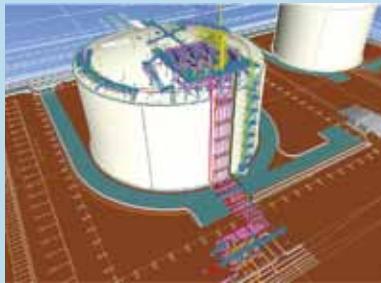
# 機械・プラント事業のビジネスプロセス

## 全てはエネルギーの 未来のために

エネルギー資源の効率的な備蓄を目指して、当社は、タンク及び付帯設備の設計、調達、建設（EPC）の各フェーズで高いプロジェクト遂行力を発揮し、メンテナンスも含めて、社会を動かすエネルギー資源を支え続けています。

### タンク新設

#### Engineering — 設計 —



安全性、経済性などを考慮しながら、お客様のニーズや規格に適合した、タンク、配管、電気計装など付帯設備を含めた設計を行っています。

#### Procurement — 調達 —



世界各国から必要な資材、機器を購入、的確な生産管理に基づき、インドネシア・バタム工場での加工を経て、建設現場へタイムリーな輸送を実現します。

#### Construction — 建設 —



様々なリソースを最適化して工期を遵守しながら、高度な溶接技術や徹底した品質管理の下、協働する専門業者と共に安全第一に工事を遂行します。

### メンテナンス

#### 主な業務内容

- 各種タンク開放・補修・改造工事
- 旧消防法タンク安全性評価
- 浮き屋根式タンク耐震性評価

「安全性」「経済性」「品質の向上」を追求し、改修計画の立案から清掃・検査・補修に至るまで、一貫したトータルサービスを展開しています。



### 製品一覧

#### ■低温貯槽



**PC/RC 外槽二重殻平底円筒形タンク**  
プレストレストコンクリート製外槽及び金属製内槽の二重構造になっており、液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）、エチレン等の貯蔵に適しています。



**金属二重殻平底円筒形タンク**  
内槽に加えて外槽にも金属を使用した二重構造となっています。液化天然ガス（LNG）、液化石油ガス（LPG）、エチレン等の貯蔵に適しています。



**常圧断熱式縦置円筒形タンク**  
金属製外槽及び金属製内槽の二重構造になっており、液化天然ガス（LNG）、液化窒素（LN2）等の貯蔵に適し、高い運転圧力の設計が可能であるため運転管理が容易となります。

#### ■常温高圧貯槽



#### 球形タンク

常温 / 高圧状態で内容物を液化させて貯蔵する球形タンクです。プロパン、ブタン等の貯蔵に適しています。都市ガスのようにガス状態で貯蔵するものもあります。

#### ■常温常圧貯槽



#### フローティングルーフタンク

浮屋根が油に直接浮かんでおり、揮発損失が少ない構造となっています。揮発性の高い原油、ガソリン、ナフサ等の貯蔵に適しています。



#### コーンルーフタンク

円錐型の屋根があるため、水の混入が防止できる構造となっています。揮発性の低い重油、軽油、灯油等の貯蔵に適しています。



#### ドームルーフタンク

ドーム型の屋根を持ち、球面屋根であるため内圧に強い構造となっています。揮発性の低い油の貯蔵や低圧ガスシールを行う場合に適しています。

# LNGバリューチェーンを支えるタンクを世界に

環境負荷の少ないエネルギーの一つとして注目される液化天然ガス LNG。当社は1969年ブルネイ・ダルサラーム国で23万m<sup>3</sup>という大型LNGタンクを建設するなど、先進技術を駆使したLNGタンクの建設に取り組んでまいりました。

建設したLNGタンクを皮切りに、半世紀近くに亘って国内外で100基以上のLNGタンク建設に携わり、世界最大級

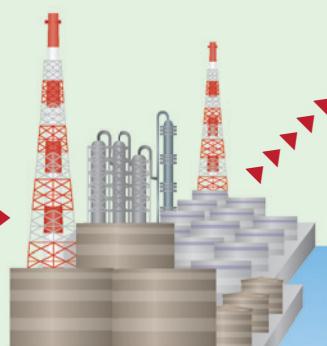
## 輸 出 国



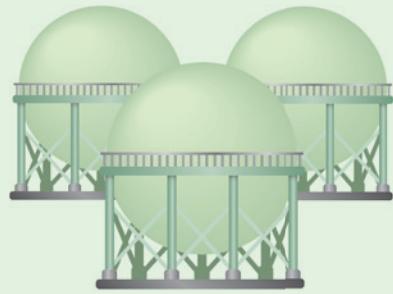
液化プラント (イメージ)



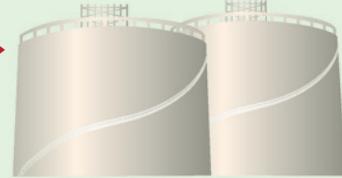
天然ガス田



液化プラント



LPGタンク



LNGタンク



LNGタンカー

### ～ LNGの輸出国で～

ガス田や原油採掘に伴って発生した随伴ガスを、液化プラントで硫化水素等不純物を取り除いた後、零下162度まで冷却することで液化し、その体積を600分の1まで凝縮することで貯蔵・運搬を容易なものにしています。当社ではこの液化プラント内で生産されたLNG及び、精製プロセスを経て生産されるプロパン、ブタンなどを貯蔵するためのタンク、その他付属の小型タンクなどを提供しております。現在LNGは世界約20カ国で生産されており、採掘技術の向上によるシェールガス等の非在来型ガス田開発などに伴い、今後更に生産拡大が見込まれています。

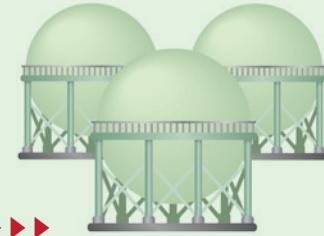
## 輸 入 国



再ガス化プラント (イメージ)



LNG気化器



ガスタンク



都市ガス



工業・化学原料



発電所

### ～ LNGの輸入国で～

生産国から輸出されたLNGは、極低温に保たれたままLNGタンカーで輸送され、日本をはじめとしてアジアを中心に、世界約30カ国へ届けられます。受入基地に運搬されたLNGはタンクに貯蔵され、再ガス化プラントで液体からガスに気化され、液化石油ガス(LPG)を添加して熱量調整が行われた後、発電設備や都市ガスパイプラインなどに送られます。当社は、このバリューチェーンにおいて受入基地でのLNGタンク、熱量調整用のLPGタンクや、その他付属の小型タンク、都市ガス貯蔵用の球形タンクなどを提供しております。

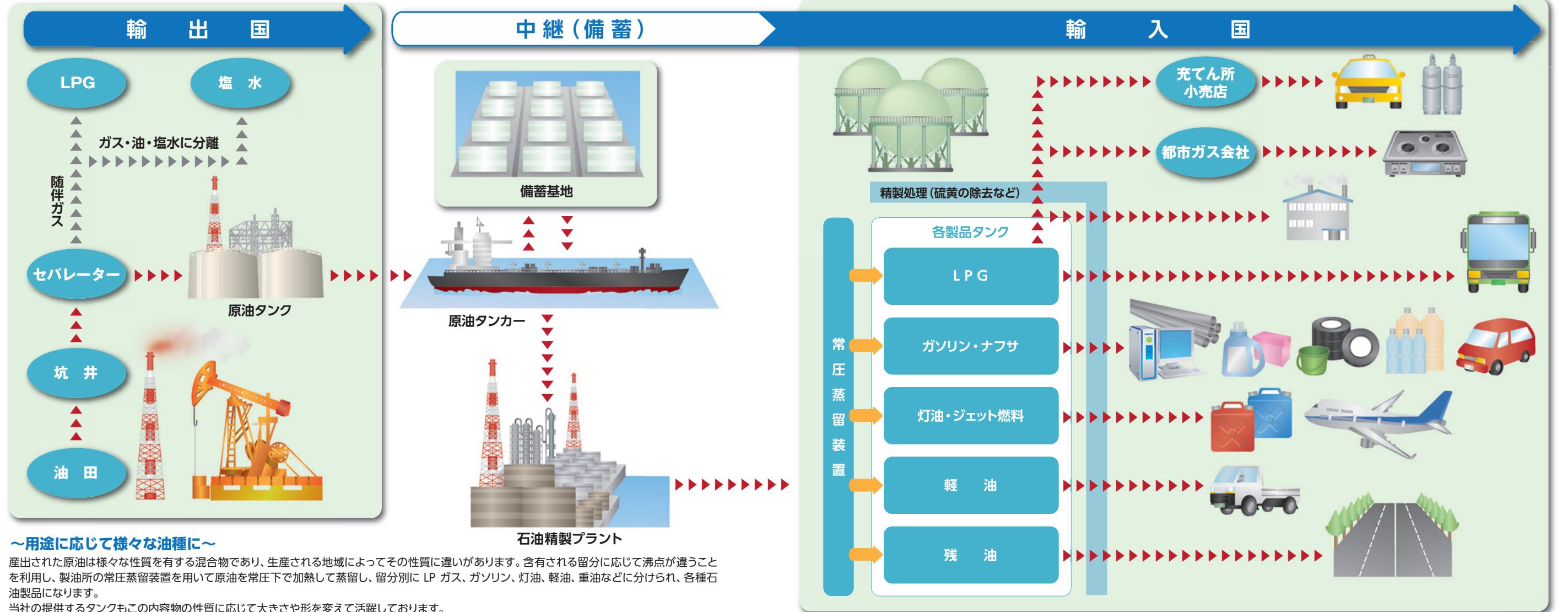
### ～ LNGタンクとは?～

零下162度に冷却された液化天然ガスを貯蔵するため魔法瓶のような構造になっています。高い安全性や大容量化が可能なことからPCLNGタンクが主流となっており、建設国における法令や規格によって構造は若干異なるものの、安全性を高めるため外層はプレストレストコンクリートを配置し、万一漏洩した場合でもタンク内部にLNGが貯留できるようにしています。このコンクリート壁の内側は外槽と内槽の二重構造となっており、内槽は極低温状態においても強度を発揮するレアメタルを含有する9%ニッケル鋼が用いられ、高度な技術で底板、側板、屋根板が溶接されています。また内外槽間は外気温の影響による気化を抑制するための保冷材で満たされています。輸送量の増加に伴い近年大型化しており、23万m<sup>3</sup>にもなると、高さは約60メートル、20階建てタワーマンションと同じくらいの高さになります。

# 原油から形を変えて活躍する石油製品を貯蔵

創業以来培ってきた溶接技術を元に、1950年に国内において石油精製が再開されるのに合わせ全溶接タンクの製造を応じて各種タンクを納入し、メンテナンスを含めたトータルサポート体制で世界中の原油・石油製品貯蔵に貢献してまい

開始、我が国初のAPI（米国石油協会）認定工場となるなどタンク建設のリーディングプレイヤーとして国内外で油種にりました。



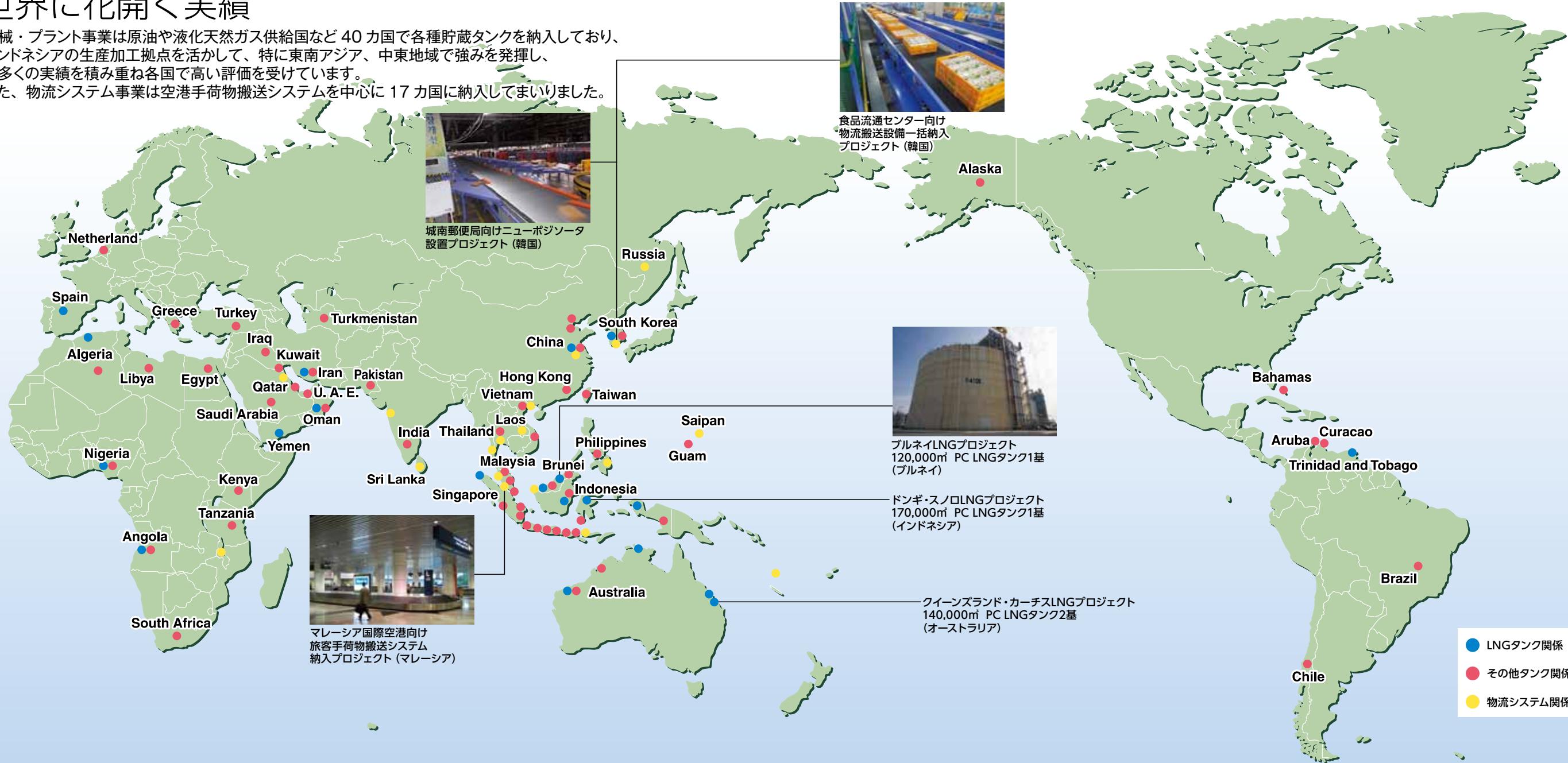
## ～用途に応じて様々な油種に～

産出された原油は様々な性質を有する混合物であり、生産される地域によってその性質に違いがあります。含有される留分に応じて沸点が異なることを利用して、製油所の常圧蒸留装置を用いて原油を常圧下で加熱して蒸留し、留分別にLPガス、ガソリン、灯油、軽油、重油などに分けられ、各種石油製品になります。

当社の提供するタンクもこの内容物の性質に応じて大きさや形を変えて活躍しております。

# 世界に花開く実績

機械・プラント事業は原油や液化天然ガス供給国など40カ国で各種貯蔵タンクを納入しており、インドネシアの生産加工拠点を活かして、特に東南アジア、中東地域で強みを発揮し、数多くの実績を積み重ね各国で高い評価を受けています。  
また、物流システム事業は空港手荷物搬送システムを中心に17カ国に納入してまいりました。



城南郵便局向けニューボジソータ設置プロジェクト (韓国)



食品流通センター向け物流搬送設備一括納入プロジェクト (韓国)



ブルネイLNGプロジェクト  
120,000m³ PC LNGタンク1基  
(ブルネイ)

ドンギ・スノロLNGプロジェクト  
170,000m³ PC LNGタンク1基  
(インドネシア)

クィーンズランド・カーチスLNGプロジェクト  
140,000m³ PC LNGタンク2基  
(オーストラリア)



マレーシア国際空港向け旅客手荷物搬送システム納入プロジェクト (マレーシア)

- LNGタンク関係
- その他タンク関係
- 物流システム関係

# トーヨーカネツのグローバルネットワーク



## 国内事業所

- 本社
- 大阪営業所
- 千葉事業所
- 和歌山工場
- サービスセンター
- 札幌・仙台・埼玉
- 東京・横浜・名古屋
- 大阪・岡山・九州

## 連結子会社(国内)

- トーヨーカネツソリューションズ株式会社
- トーヨーコーケン株式会社
- トーヨーカネツビルテック株式会社
- 株式会社トーヨーサービスシステム
- 環境リサーチ株式会社



## 連結子会社(海外)

- トーヨーカネツインドネシア社 (インドネシア)
- トーヨーカネツマレーシア社 (マレーシア)
- トーヨーカネツシンガポール社 (シンガポール)

## ■ 会社情報

(2018年3月31日現在)

### 会社概要

商号	トーヨーカネツ株式会社 TOYO KANETSU K.K.
代表取締役社長	柳川 徹
創立	1941年(昭和16年)5月16日
所在地	東京都江東区南砂二丁目11番1号
資本金	185億80百万円
発行済株式総数	9,703,074株
1単元の株式数	100株
従業員数	909名(連結) 214名(単体)
証券コード	6369

## ■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	660	7.09
株式会社りそな銀行	459	4.93
株式会社レオパレス21	423	4.54
日本生命保険相互会社	414	4.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	353	3.80
大栄不動産株式会社	212	2.28
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	208	2.24
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	201	2.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	161	1.73
株式会社みずほ銀行	153	1.65

※上記のほか、自己株式を401千株保有しております。  
※上記の持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

## ■ 沿革

- 1941年 東洋火熱工業(株)創立  
工業窯炉の製造、販売を開始
- 1950年 全溶接タンクの製造を開始
- 1955年 横浜コンベヤ工場開設
- 1969年 商号をトーヨーカネツ(株)に変更
- 1970年 東京証券取引所市場第一部銘柄となる
- 1971年 敷地6万坪の千葉工場を木更津市に竣工
- 1974年 トーヨーカネツインドネシア社設立
- 1978年 トーヨーカネツインドネシア社に於いて  
バタム工場を開設
- 1981年 デジタルピッキングシステムを日本で  
最初に開発・販売
- 1994年 国内タンクメーカー初のISO9001認証取得
- 1999年 物流システム事業においてもISO9001認証取得
- 2000年 「アスクルのロジスティクス進化論」で  
ロジスティクス大賞受賞
- 2002年 物流システム事業をトーヨーカネツ  
ソリューションズ(株)とし分社
- 2006年 トーヨーカネツソリューションズ(株)に於いて  
ISO14001認証取得
- 2008年 トーヨーカネツインドネシア社に於いて電気事業法  
民間製品認証登録溶接施工工場の認証を取得
- 2012年 ISO14001認証取得
- 2014年 トーヨーカネツビルテック(株)を設立し建築事業  
を統合
- 2015年 液体水素タンク建設を目指し東京工業大学と  
共同研究開発
- 2016年 創立75周年を機に本社を江東区南砂に移転

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領 株主確定日	〔 期末配当金 3月31日 〕 〔 中間配当金 9月30日 〕
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人・ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL <a href="http://www.toyokanetsu.co.jp/">http://www.toyokanetsu.co.jp/</a>

### (ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### (ご案内)

#### 株式に関するマイナンバー制度のお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届しいただく必要がございます。

#### 【株式関係業務におけるマイナンバーの利用】

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

#### 【主な支払調書】

\*配当金に関する支払調書

\*単元未満株式の買取請求等株式の譲渡取引に関する支払調書

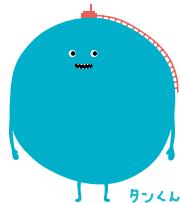
#### 【マイナンバーのお届出に関するお問合せ先】

証券会社の口座にて株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問合せください。

証券会社とのお取引がない株主様

三菱UFJ信託銀行 証券代行部までお問合せください。



# TOYO KANETSU GROUP



## トヨカネツ 株式会社

本社 〒136-8666 東京都江東区南砂二丁目11番1号  
TEL.03(5857)3333(代表) FAX.03(5857)3170



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

